

## 主 題：孤独の救い主

## 聖書箇所：マルコの福音書 14章 27-52節

イエスと弟子たちは最後の晩餐を終えて、ゲッセマネの園へと向かいます。イエスは弟子たちにへりくだることの大切さを繰り返し教えて来られたのに、弟子たちの弱点は高慢でした。私たちにとってもこの高慢は実にやっかいなものです。気をつけていてもすぐに頭をもたげてきます。旧約聖書の中にもモーセやダニエルなどが高慢が罪であることを指摘しています。私たちは自分の姿を正しく知ることが大切です。そこから、神の力、神の知恵をいただいて歩いていくからです。

今日の聖書の箇所から、三つの出来事を通して、へりくだることを学びましょう。

## 1. ゲッセマネの園への道の途上で 27-31節

ここでイエスは二つのことを言われています。27節に11使徒がイエスを見捨てること、28節には十字架と復活の真理を、です。

27節に「つまずき」とありますが、これは罪、不信仰に導く、という意味です。弟子たちはイエスとの関係を否定する、と旧約聖書のゼカリヤ書13:7を引用してイエスは言われます。「わたしが羊飼いを打つ。…」と。「わたし」とは父なる神で、「羊飼いはイエス・キリストのことです。「打つ」とは死に至らせることです。イエスの十字架は神のご計画なのです。

28節にイエスのご自分が「よみがえって…ガリラヤへ行く」と言われています。しかし、それを信じない弟子たちの姿が次に見られます。29節にペテロは「…私はつまずきません。」と「私」を強調し、力を込めて言い張り、抗議しています。ペテロの否定はここが2度目です。1度目は最後の晩餐の席でした。ペテロの傲慢さ、自信過剰です。自分は大丈夫とする、自分の知恵を優先するのです。そのペテロにイエスは言われます。ルカ22:31「サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。」、サタンは主の主権のもとに働きます。ふるいにかけるのは弟子たちの成長のためです。32節「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」とイエスはペテロに言われます。ペテロの失敗をご存じのうえで、このように「あなたのために祈る」と言われるのです。マルコ14:30には「まことに、あなたに告げます。」、大切なことを言いますと、ペテロが否定することを予言されています。

## 2. ゲッセマネの園において 32-42節

ここでは三つのことを見ます。

## (1) イエスのご自身の心を弟子たちに開かれました。

32, 33節。「恐れもだえ」とは悲しみに満ち溢れる様子です。おびえる、心が乱れる、不安・悩みがあるという意味です。故郷から遠く離れ交わりをもつ人が誰もいないような状態です。「恐れ」は死、十字架刑を恐れていたのではありません。人類の罪を負って、神から引き裂かれ見捨てられることによる恐れです。「イエスは、常に神との正しい交わりの中にあることが、平安・喜びのもとであることを模範として示された」、これが私たちが学ぶべき大切なことです。神に逆らうことが、どれほどの不安であるかを示されたのです。

## (2) 弟子たちへの要求

34節、「ここを離れないで、目をさましていなさい。」と、イエスの悲しみを共有するように言われます。

## (3) イエスの祈り

35-42節、弟子たちを“自分の友”とされました。私たち兄弟姉妹が互いの重荷を負い合うこと、それは一人一人の心の中が変えられてゆくことから始まります。弟子たちが大切なことを学ぶために、イエスは祈り、話されたのです。ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人はかつて、だれが一番偉いかと論じ合い(9:34)、ヤコブとヨハネは「あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。」と願いました(10:35-37)。a) このような彼らにイエスはへりくだることを学ばせたのです。しかし、彼らは三度、眠っているところを見つけられるのです。37節には「1時間でも目をさましていることができなかつたのか」とイエスは彼らに言われています。弟子たちにはイエスの心がわかっていなかったのです。

b) 「誘惑に陥らないように、目をさまして」(38節)と、神の助けが必要だと知りなさい、自分がどれほど弱い存在かを知りなさいと言われます。c) イエスの祈りです(36節)。(1) 神への信頼をあかししま

す。アバとはヘブル語で父です。父なる神との親密さです。常に最善をなしてくださる方です。イエスは神への信頼を失っていません。(2) 信仰の姿、「あなたにおできにならないことはありません。」と神への信頼を言い表しておられます。十字架の死を経験することなく、贖いのわざがなされるかどうか？と問いかけるのですが、「あなたのみこころのままを、なさってください。」とあくまで神に従順です。ここに、私たちの祈りとイエスの祈りがどれほど違うかを知るべきです。私たちがいかに弱く、愚かな者であるかを悟らせるのです。

### 3. イエスの逮捕 43-52 節

#### (1) ユダの裏切り

44 節「私が口づけをするのが」とは、繰り返し繰り返し口づけをするということです。これは他の人と間違えないためにです。口づけは愛情、尊敬をあらわす行為です。イエスはユダに対してあわれみをかけておられます。マタイ 26 : 49, 50 「友よ、何のために来たのですか。」と、ユダを「友」と呼んでおられます。

#### (2) ペテロのあやまち

47 節、ヨハネ 18 : 10、ペテロは大祭司マルコスの耳を切り落としますが、イエスはそれを癒されました。ペテロは自分の力でイエスを守ろうとしたのです。マタイ 26 : 53 「…わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。」と、滅ぼすことはできる、しかし、神のみこころだから、と言われるのです。

#### (3) イエスの逮捕 48, 49 節

イエスを捕らえる正当な理由はなかったのです。夜中に、強盗に向かうように、彼らはイエスを捕らえるのです。41 節「人の子は罪人たちの手に渡されます。」と言われ、抵抗されません。それを見捨てて逃げた弟子たちです。51, 52 節の「ある青年」とはマルコのことだといわれています。最後の晩餐をもった二階座敷はマルコの家で、マルコはその後寝ていたのでしょうか。このマルコも逃げて行きました。イエスはどんな気持ちだったのでしょうか？

⇒私たちが覚えるべきことは、誠実で忠実な歩みです。神の助けを求めつつ歩むことです。